

平成21年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1471902658	事業の開始年月日	平成17年5月1日	
		指定年月日	平成17年5月1日	
法人名	株式会社スマイル			
事業所名	スマイル住まいる走水			
所在地	(239-0811) 横須賀市走水1-1-6			
サービス種別 定員等	小規模多機能型居宅介護	登録定員	名	
		通い定員	名	
定員等	認知症対応型共同生活介護	宿泊定員	名	
		定員計	9名	
		ユニット数	1 ユニット	
自己評価作成日	平成21年12月19日	評価結果 市町村受理日	平成22年5月19日	

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.kaigo-kouhyou-kanagawa.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=1471902658&SCD=320
----------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

働く職員はご入居者の出来ていること(掃除・食器洗い・食事作りなど)をそっと見守り、必要な支援をします。
行動を制限するのではなく“どうされたいのか”「気持ちに寄り添うこと」「関わりを持つこと」を心がけています。
また、地域の方々との関わり、社会との関わりも大切にしたいと考え町内会のお祭りや近隣小学校の行事などにもご入居者の方と一緒に参加しています。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社フィールズ		
所在地	251-0024 神奈川県藤沢市鵜沼橋1-2-4 ヌグ双ファースト 3階		
訪問調査日	平成22年1月26日	評価機関 評価決定日	平成22年4月20日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

リビング兼食堂からは海が臨め、広々とした雰囲気が漂うグループホームです。1階のデイサービスには、ひのき風呂があり、グループホームの入居者もゆず湯、しょうぶ湯などの日は、ひのきのお風呂で温泉気分を楽しんでいます。法人として年に1度、一泊旅行を企画し、希望者は参加することで、生活の変化を楽しむ工夫が見られます。日常生活の中でも、外食の機会を設けたり、流しそうめんを食したり、近隣の人に声をかけて、餅つきをするなど、メリハリのある生活をと心がけています。職員の定着率がよく、開設時からの職員が多いのが特徴です。さらに、ホームの近隣に居住の職員の方が多いため、地域情報なども入り、地域密着のグループホームになっています。グループホーム側でも、子ども110番に手を挙げるなど、地域貢献に力を注いでいます。法人として、家族にアンケートを実施し、家族の意見を吸い上げ、検討するなど、利用者のよりよい生活に向けての努力をしています。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	スマイル住まいる走水
ユニット名	

アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23,24,25)		1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18,38)		1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36,37)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30,31)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9,10,19)		1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9,10,19)		1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11,12)		1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員皆で考えた運営理念に基づいて日々仕事に就いている。	管理者と職員参加で作上げた理念を毎朝、職員全員で唱和しています。理念を生かしたケアに取り組み、折に触れて振り返っています。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の町内で行われる行事（夏祭りなど）に利用者の方と一緒に参加している。町内会加入。 今年は参加できなかったが防災訓練などにも参加していく。	毎年2月に、町内会から杵と臼を借り、近隣の人も参加する餅つき大会をしています。地域の中学生在が毎年体験実習に来ています。近隣のお年寄りに対し、併設するデイサービスのヒノキ風呂の利用が出来ないか検討中です。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今まで実施できていない。今年度から地域の福祉に携わる事業者・民生委員の方々の集まりに参加しているのでこの場で出来ることに取り組んでいく。		
4	3	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	非常災害時、近隣の方々や地域との関わりについて話が挙がり、取り組んでいくべき課題、サービスの向上に繋がっている。	運営推進会議は2回開催され、主に防災対策について意見交換をしました。防災マップ作成の企画案が出るなど、会議を通じて地域との関わりが深まってきました。	運営推進会議メンバーの充実と年6回の定期的な開催が期待されます。
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	看取りケア実施の際など市役所の担当者へ連絡・相談している。	今年度、当ホームとしては初めての看取りを行いました。看取りの実施にあたり、市の担当者で連絡・相談を行い、手順書、同意書などについて教えてもらいました。看取り終了後には、市に報告をしています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアには取り組んでいるが、具体的な行為を職員全員が正しく理解するところまでは至っていない。身体拘束マニュアルを再度職員全員で周知する。	ベッド柵はありません。2階のグループホームから1階のデイサービスに行くフロアのドアや玄関のカギは施錠していません。職員には、身体拘束をしないケアについて更に理解を深めてもらうことにしています。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	横須賀市で実施する虐待防止の研修・講習などに職員が参加。		
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	地域包括支援センターが実施している勉強会（成年後見制度について）に職員が参加している。他の職員への伝達も行っていくことが大切。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時はグループホームにお越しいただき、説明させていただいている。		
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	今年度、法人全体の取り組みとしてご家族様に向けてのアンケートを実施。（意見・要望の聞き取り）改善に向けて取り組んでいる。管理者・職員は面会時のコミュニケーションを大切にしてい	家族の来所は多く、ご意見や要望などを聞くようにしています。今年度法人として、家族アンケート（接遇・施設・食事・立地・記録・満足度などについてのアンケート）を実施し、改善に取り組んでいます。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	個別に職員の運営に関しての意見を聞く機会は年1回の面談がある。(事業所所長実施)回数を増やしても良いと思われる。	毎年1回、所長と職員の面談が行われています。また、ミーティング時に業務の見直しや、話し合いをする中で職員の意見を聞いています。職員から職員の増員の要望があり、運営側も実現に向けて考慮しています。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	左記の内容について、事業所所長による面談を実施している。		
13		職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修には積極的に参加できるよう努めている。 横須賀市や市グループホーム協議会主催の研修など。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	地域包括支援センターが実施している勉強会やケア会議に参加している。情報交換を通じ、求められていることをケアで実践していく。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	アセスメント調査の際、必ずご本人様にも話しを伺いどのような関わりが必要とされるか把握し、職員は本人が話していた要望など聞いたことは全員が分かるように記録に残している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	心がけている関係づくりは面会の際などに十分に話を伺う時間を持つこと。アセスメント調査の段階で聞き取っていた不安なことなどについて現状をお伝えすることなど。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメント調査実施後、入居者判定会議を行い（職員参加）必要な支援について話をしている。福祉用具の利用なども。		
18		本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員はご入居者の出来ていることを（掃除・食器荒い・食事づくりなど）そっと見守り必要な支援をしています。		
19		本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	運営理念に掲げている。面会の際など、職員の側から明るくコミュニケーションを図れるように今後も努める。		
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	東京の日本橋にある高島屋へ行ったり、馴染みの銭湯に行ったことがある。ご本人の状況に合わせた支援を今後も行っていく。	入居前の友人や、近所の人を訪ねてくれます。以前利用していた銭湯に職員と行き、番台の人も覚えていてくれて、利用者も大満足しました。また、以前通っていたデイサービスのバザーに行き、馴染みの関係をつないでいます。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者様同士で関係が気づけるような環境づくりを心がけている。(廊下の椅子や畳など共有スペースの中にも少人数で話ができるような空間・場の提供。)		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご退去となる場合でも、何かあればいつでもお話をうかがいますということは伝えている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	「気づいたこと」を何でも書き込める用紙があり、ご本人の言葉もここに書き込むようにしている。職員全員が目を通す。	猫の好きな人がいるので、本物そっくりの猫の人形をリビングに置いています。俳句の好きな人が口ずさんだ句を、書にしたためてリビングに飾るなど、利用者の意向をくみ取っています。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメント調査で聞き取りが出来ていない箇所についてスタッフが聞き取った内容は「気づいたこと」に書き込むようにしているが方法を検討。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々職員が記録している「生活の様子」や「気づいたこと」から現状の把握に努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画書の作成に遅滞あり。現状に即した計画書の作成をしていく。	介護計画の作成、見直しに当たっては、職員、家族の意見も取り入れ作成しています。症状が変化する人に関しては、随時変更していますが、状態が変わらない人の見直しは、年に1度になっています。	介護計画の見直しは、状態変化の有無にかかわらず、定期的に、半年に1度は見直すことが期待されます。
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に日々の様子や食事量、バイタルの記載、気づいたことなどを記載している。 出勤時に記録書を読んでから仕事に就く。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	福祉用具の貸与（エアマット等）など、個別で対応していたものに対しても事業所で一定期間利用できるようにしている。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	駅前の美容院を利用されている方1名。また、同様に駅前のスーパーへの買い物にも行っているが頻度が少ないのでもう少し外出の機会を持てるように努めていく。		
30	11	かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご入居の際、かかりつけ医についての意向を確認し、希望された方に対して往診医を依頼している。	入居後も、以前のかかりつけ医に家族の支援で通っている人がいます。また、家族から薬をやめさせたいと言う申し出には、ホームの往診医に相談の上、薬をやめて職員が気をつけているケースがあります。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回、訪問看護を利用している（医療連携体制）。 連絡・相談・報告を密にしている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際には介護サマリーを作成。病院側へ提供している。ご家族様からの情報をいただくことも多いが必要に応じて病院側へ連絡・相談している。		
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合について、契約時に説明している。その他、利用者の状況に合わせて随時話をしている。 終末期のあり方については今年度初めて看取りケアを実施している所以他のご家族様への周知も必要。	今年度ホームで初めて看取りを行ったので、その際の体験を生かして、ほかのご家族とも話し合っていく意向です。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	毎朝、朝礼を行っており、その際にCPRを実施。（復唱している）		
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練の回数を増やすことで、常日頃から動けるようにしていく。 地域との協力体制については現在、取り組み中。	今年度は避難訓練を未だ実施していませんが、平成22年2月に実施する予定です。今後は、家族や近隣の人への応援も得たいので、運営推進会議でも話し合っていくことを考えています。	避難訓練は、半年に1度以上実施すると共に、実施記録の作成が期待されます。また、災害用品の備蓄も期待されます。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	認知症はあっても、人生の先輩であることから敬語を使って話をするにしている。	人生の先輩として敬い、言葉掛けや対応に気をつけ本人の人格や気持ちに配慮したケアをしています。個人情報の取り扱いや守秘義務については職員に周知しています。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人ひとりのご利用者様にゆっくりと関わりを持つことを心がけている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴日などは決めず、その日希望される方や状況に応じて入浴をしている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ズボンが嫌いな方はスカートを、夏場は作務衣を着ている方、お化粧品をしている方、美容院に通われる方がいる。		
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	台所に立って出来るかた、椅子に腰掛けながら食材を切る方などそれぞれの方に合わせて食事作りに取り組んでいます。	食事全般について、食事委員会で検討しています。おにぎり持参で外出したり、ホームで流しそうめんをしたり、お寿司の出前をとるなど、食の楽しみを工夫しています。調理や洗いものを手伝ってくれる利用者がいて、和やかな雰囲気です。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりに合わせて食事の盛り付けもしている。水分摂取量の把握。熱いお茶を好まれる方、猫舌の方、好む温度で配膳。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの状況に合わせて口腔ケアを実施している。 週1回訪問歯科を利用。		
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	日中ご利用者の方、全員がトイレでの排泄を行っている。排泄の失敗があった場合には、着替えをそっと用意し手渡すようにしている。	排泄チェック表から排泄パターンを把握すると共に利用者それぞれの表情や仕草から察知し、トイレ誘導を行い、排泄の自立に向けた支援を行っています。排泄が困難な方には腹部マッサージを行い自力で出来るように支援しています。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘傾向の方は多く、ヨーグルトや果物・水分摂取も促している。運動の働きかけについては課題。		
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴日や時間帯も決めていない。お一人で入浴される方については、見守りのみしている。	毎日、午後8時までは希望に応じて何時でも入浴できる支援をしています。柚子湯や菖蒲湯など、また、1階のデイサービス施設にあるヒノキ風呂を敬老の日などに楽しんだりしています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	部屋のベッドで休むことや、晝で少し休むことなど身体の疲れなどみられる時には休んでいただくよう支援している。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員全員がいつでも見られるように、個別の服薬一覧表がある。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事が好きだという方、裁縫が好きだという方、ドライブが好きだという方に合わせた支援をしている。		
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物へ行きたい方、ドライブに行きたいという方がいる時はその場で行けるように努めている。 以前には東京の日本橋まで外出したことあり。	お天気の良い日は声掛けをして、近くの海岸線沿いを散歩したり、外気浴をしています。希望に応じて外出支援をすると共に、初詣を始めとして季節に応じて各地に出かけています。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出時には、お財布をご本人に持ってもらう好きなものを買えるよう支援している。 お財布を常時、持っている方もいる。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望されれば、電話や手紙のやり取りができるように支援します。		
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしています。	居心地よく過ごせるような工夫を随所に心がけています。 目に入りやすいところに物を置いて、好きな時に手に取れるような環境づくりをしています。	広くゆったりとしたリビングで、その一角には6畳の畳部分があり、廊下にはテーブルとイスが置かれ、利用者は思い思いに過ごしています。換気が適宜行われ、嫌な臭いや音もなく、照明も適度で過ごしやすい環境です。	
53		共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下に椅子を置き、リビング以外でも腰を下ろして寛げるような環境づくりをしています。		
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人の好きだったものや大切にしていたものは何でもお持ちいただくようにしています。	本人の使い慣れた家具や小物、仏壇、テレビなどが配置され、家族の写真などが飾られています。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手の届くところに物があること、読んでわかりやすい表示などを心がけています。		

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	運営推進会議の開催が年間で3回、地域会議の開催が2回実施。 年6回の実施に達していない。	年間に6回の開催をする。 (定期的に)	2ヶ月に1回のペースで会議を開催	12ヶ月
2	26	モニタリング実施後、介護計画の見直し、反映ができていない。	半年に1度は計画を見直し、ご本人様の状態に合った計画書作成。	ケアカンファレンスを月1回は必ず行うことで都度、計画と照らし合わせ最新のものにする。	22.5～実施
3	35	避難訓練の実施が年に1回。	定期的実施。	前回はh22.2実施なので、6月には訓練を行う。	1ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目の を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。